

Wi-Fi環境を整え、PCやTabでネットワークを構築し情報共有を図る Wi-Fi環境以外においてもインカムを活用し、スムーズな情報共有を図る

NPO法人チャイルドサポートきくち
こども発育支援センターえるぴあ（児童発達支援事業）

課題

- ・コロナ対応を行うにあたり、事業所内での情報共有に課題があった（発熱等の体調不良の有無、保護者からの伝達事項、スタッフの勤務状況等）
- ・内線や携帯電話でのやり取りしか方法がなくスムーズではなかった
- ・こども達の安全確認を徹底したい
- ・Zoom会議やWeb研修等の対応が必ず必要になるが限られている。必要な情報が入手できない
- ・今後のコロナウイルス感染状況の拡大する可能性があるため、対面による情報交換からIT機器を駆使したより安全なコミュニケーションを推進していきたい

ICT機器 導入

Wi-Fiルーター・PC・
タブレット・インカム

成果

- ①業務の質の向上
スタッフ間の連携がスムーズになり、こども達の状況を全員で共有できるようになった。
今までは、対面で連絡報告相談を行い、支援の手簿があったが、全てをIT機器を通して行うようになり労務の軽減につながった。
- ②量的な効率化
こども達の対応をしながら、情報共有ができるようになった。
Zoom会議やWebで情報交換できるようになり、事業所にいながら効率よく情報が入手できるようになった。
スタッフがITに対して苦手意識があったが、効率がいいことが分かりITに対しての学びの機会となった

業務効率化のステップ

- ①配置基準上のスタッフ数では、情報伝達がうまく行かず事後報告が多かった。もっとリアルタイムな情報共有ができないと思わぬ事故や信頼に関わる可能性があることをスタッフミーティングにて検討する。こどもが来所してすぐに得る情報や総務にある保護者からの電話・メール等からの情報をスムーズに共有できる方法を検討する。
- ②①の検討内容を基に、インカムを全スタッフが着用し、業務しながら情報が入手できている。またパソコンで受けた情報をタブレットに転送し視覚的なさらなる情報共有を図ることができた。
- ③毎回のミーティング時に運用の仕方について協議する。保管の仕方、情報伝達を確実に伝えられるように工夫。機器に不慣れなスタッフからは「もっと慣れたい」などの意見もあった。
- ④できるだけ身近な機器として活用することを推奨する。今後も毎回ブラッシュアップを行い効率化を目指す。

職員の声など

【良かった点】

- ・情報共有することが容易になり、欲しい情報も支援を行いながらもできるのでありがたい
- ・IT機器に接することで、Web研修などにも少しずつでも慣れてきて効率化が図れてきている
- ・情報共有が安易となり、スタッフ間のコミュニケーションが進んでいる

【悪かった点】

- ・不慣れなこともあり、使いこなすまで時間がかかる。
- ・新人スタッフが気を使うのではないかと心配する声があった。

【今後の課題・その他】

- ・情報を可視化して、残る資料としてPCやTABを中心とした情報共有も必要ではないかと考える。